

第12回「酒田五法」

「酒田五法」

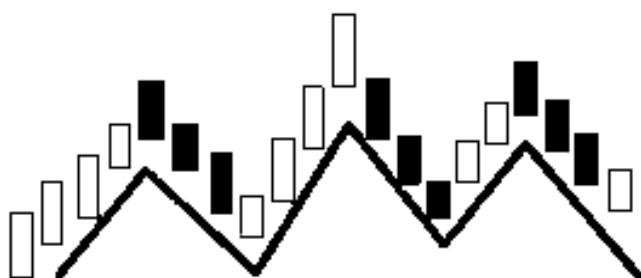
酒田五法は、山形県庄内酒田に伝わる、相場の達人本間宗久が編み出したチャート分析です。酒田は江戸時代に庄内米の積出港として知られ、日本罫線の祖として知られる本間宗久の地盤です。また、本間宗久は酒田五法を用い江戸時代の米相場において巨財を成したとも言われています。

内容は『三山』『三兵』『三川』『三空』『三法』の5つで構成されております。

三山（三尊）の特徴

三山とは、底値より上伸・下押しの波乱を三度繰り返す体型で大天井を表す線です。最も判り易いのは三尊天井型で、米国でもトリプルトップ、あるいはヘッド・アンド・ショルダーと称せられ天井形成の典型的なパターンにあげられています。もちろん真ん中が最も高いのが理想的ですが、必ずしもそうでなくとも三山形成、特にこれに出来高面の動きを伴って現れる際には天井とみて間違いないでしょう。逆三尊は、三尊天井型の逆で大底を表す線です。

三山（三尊）

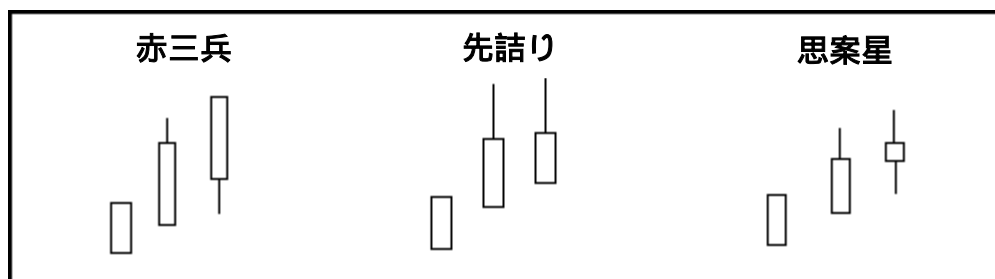


逆三山（逆三尊）

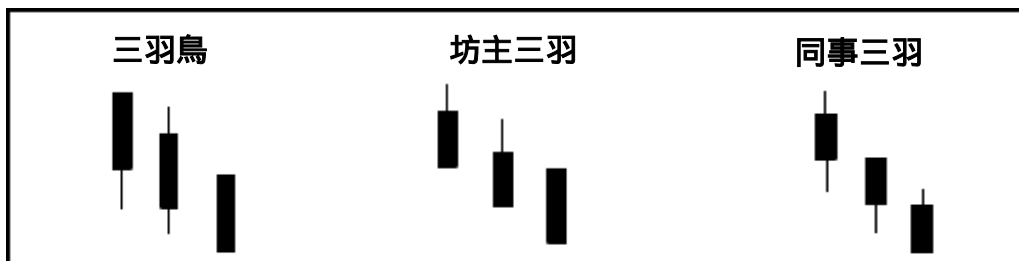


三兵の特徴

三兵は陽線、あるいは陰線が三本平行して同一方向に向かっている場合を指します。最も、典型的なのは陽線の場合の「赤三兵」、これは高寄りしないが終値は確実に切り上げている形(ジリ高調)で大きな上げ相場の前兆と見られます。ただし、同じ赤三兵でも上ヒゲを引いてきたのは「赤三兵先詰まり」と言われ上伸力が鈍ってきている証拠であり、さらに三線目が小陽線のコマになると「赤三兵思案星」と言われ転換期が近づいていることを意味しています。



陰線三本が平行しているのは黒三兵（三羽鳥ともいう）ですが、これは下落相場の典型です。大引最安値が3日続いたものが「坊主三羽」、大引値と翌日寄り値が同じ形で続いているのが「同事三羽」で、特に弱い線とされています。



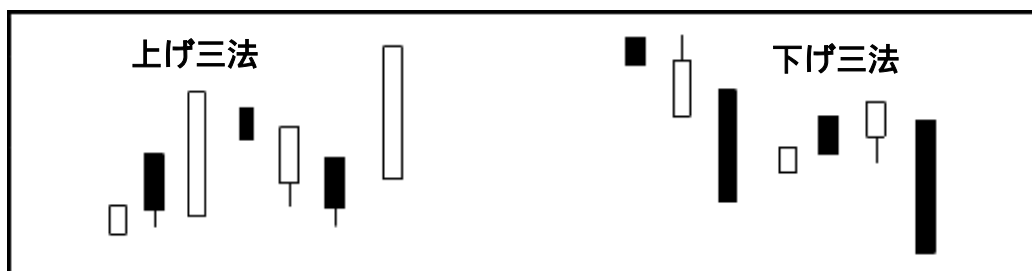
三川の特徴

三川とは、一般的に三本の線から相場の転換期をとらえるものです。売り線としては「三川宵の十字星」、「三川上放れ二羽鳥」、買い線としては「変形三川底」などがあります。また、陰線が並ぶとき「二羽鳥」「三羽鳥」と言いますが、これは高い木にとまっている不吉なカラスに例えたものと言われています。



三法の特徴

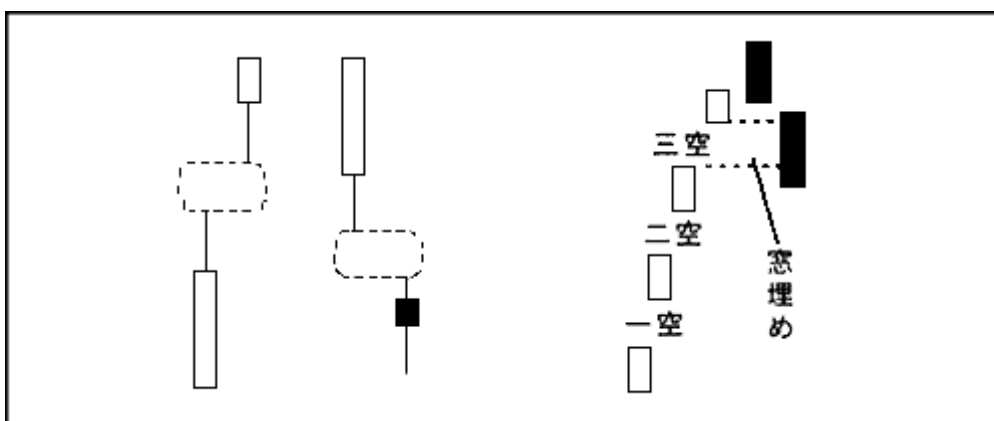
三法とは、「**売るべし、買うべし、休むべし**」と言われるように、休むことができるかどうか相場巧者となる分かれ目です。戦術としては「上げ三法」、「下げ三法」、「上放れ三法」に分かれています。上げ三法は上昇過程において出現した大陽線の後、小さな陽線・陰線を三本はらみ、その後再び大陽線大引坊主となったものです。中間の三線は休みですが、結局三日かかって先の大陽線を下回れず、次に三日の下げを一気に取り戻しての新値追いとなった新しい上伸力を評価しようという考えです。下げ三法はこの逆です。



三空の特徴

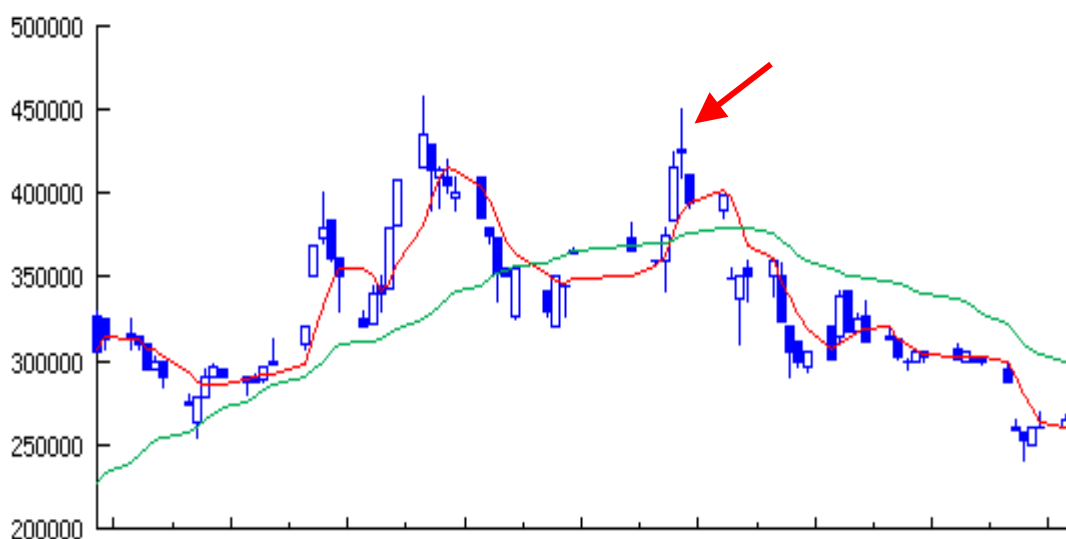
三空の場合、上げ相場のおきには「三空踏み上げには売り向かえ」と言われています。一空目には新規の強力な買い勢力が出現、二空目には売り方の撤退と買い方の買い寄せ、三空目は踏みと出遅れた買い方の買いによるものとみれば、ここで噴き上げ天井の公算大となり、その後は買い方同士のつぶし合いの場となるため、逆に売り向かった方が良いとの見方です。

この逆が、「三空たたき込みには買い向かえ」で、買い方の投げ、売り方の追撃売り崩しで大底形成となる公算大との見方があります。もちろん、単線の空の連続だけではなく、途中若干のもみ合いがあっても見方は同じです。



以上が酒田五法と呼ばれるローソク足組合せの解釈です。色々なチャートに当てはめて検証して見て下さい。株式相場に関わる多くの人達が参考になっている法則ですので身に付ければ大きな武器になる事は間違いありません。以下に参考チャートを用意しておりますのでご覧下さい。

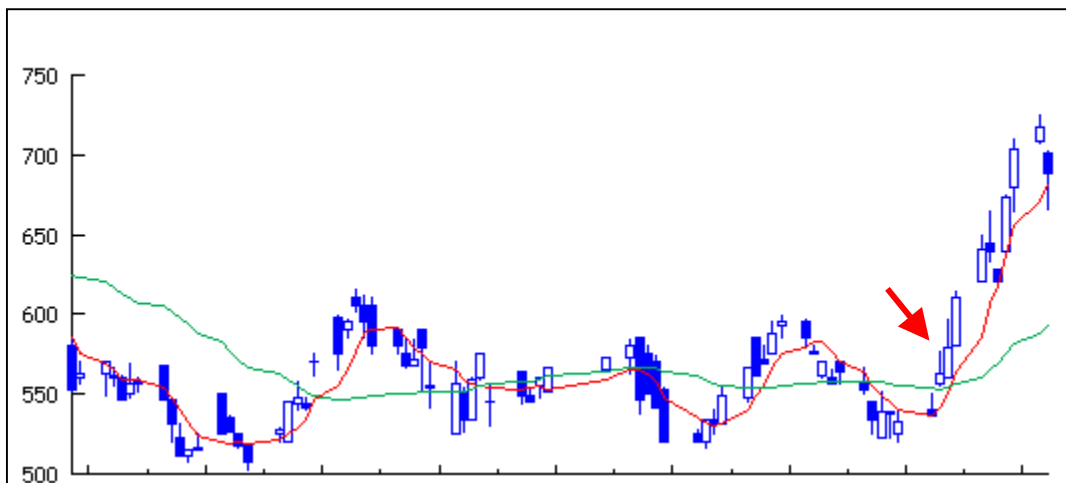
三川宵の十字星（宵の明星）



三羽鳥（陰線連続 3 本）



赤三兵（陽線 3 本連続）



同時三羽（大引値と翌日寄り値が同値）陰線 3 本連続

